

事業1：南伊豆町生涯活躍のまち 「南伊豆の大学づくりプロジェクト」

地域再生計画の名称	南伊豆町生涯活躍のまち 「南伊豆の大学づくりプロジェクト」			
総合戦略上の位置づけ	基本目標4 南伊豆町が持つ環境を活かして生涯健康で元気に暮らせる地域社会を創出し、アクティブシニア層の転入を増やし、後期高齢者の転出を抑える			
事業の内容	地域再生基本方針に基づく支援制度「生涯活躍のまち形成事業計画に基づく特例（内閣府、厚生労働省）」及び「生涯活躍のまち形成事業計画によるサ高住の入居要件の設定（国土交通省・厚生労働省）」を活用し、生涯活躍のまちづくりを推進することで、本町の地域再生を図る事業			
事業期間・事業費	平成29年度から令和3年度			
目標（KPI）	目標（KPI）	前年度末	令和元年度	事業全体
	拠点エリア内への移住者数	2人	10人	50人
	生涯学習プログラムへの都市部からの参加者数	36人	40人	200人
	サ高住等整備計画づくりへの参加者数及び入居（移住）相談者数	0人	40人	150人
	サテライトオフィス、シェアオフィスの利用者数	26団体	5団体	20団体
	本事業に関する企業者数又は雇用創出数	0人	4人	16人
	遊休施設の活用件数	0施設	3施設	15施設
具体的な取組及び効果検証	<p>平成22年度から検討を進めてきた東京都杉並区との自治体間連携による特別養護老人ホームの整備については、静岡県、杉並区、南伊豆町との特養整備に関する基本合意を受け、また、後期高齢者医療保険制度の改正等、要件整備が整い、下田市に本部を置く社会福祉法人梓友会が整備運営を担う形で平成30年3月に開所を迎えることができた。</p> <p>一方で平成27年度から本格的に取組み始めた健康創造型生涯活躍のまちづくりは、平成28年度に設置された「南伊豆町生涯活躍のまち推進協議会」での審議を経て、「教えあい学び合う（生涯学習）」をキーワードに若者から高齢者までを取り込みながら、健康寿命を延ばすとともに、地域住民にも移住者にも魅力のあるまちづくりを目指すこと（地理的空間的展開）とし、「既存施設の有効活用」により、多世代向けの住まいや働く場所の整備、また高齢化の進んだ際の地域包括ケアシステムを進めること（時間的継続的展開）を基本とした南伊豆町版生涯活躍のまち「（仮称）ミナミイズ温泉大学プロジェクト」中間まとめとして報告され、地方創生に関する各種支援を活用しながら、同報告の内容に基づき取組の深化を図ってきた。</p> <p>本計画においては、一部事務組合下田メディカルセンターが所有する共立湊病院跡地の取得及び再開発を念頭に進め、計画当初から共立湊病院跡地取得に</p>			

向けて取り組んできたが、所有者との交渉が難航し、計画の推進に遅れが生じ、本計画と共に地域再生計画の認定を受けた地方創生推進交付金を活用した事業については、毎年計画内容の修正を図りながら進めてきた。

本計画（5か年計画）の後半では、湊病院跡地への交流拠点整備、サービス付き高齢者向け住宅の整備（整備事業者の選定）など、ハード事業が盛り込まれ、共立湊病院跡地の再生に向けた拠点整備として進める想定であったが、同地の取得及び活用については財政面、防災面の観点から見送ることとなり、大幅な計画変更の必要が生じている。

今年度の事業については、計画内容の変更のための各種調整及びこれまで取り組んできたソフト事業を継続的に進めて来た。

具体的には、定住及び移住の推進を図る取組として、各種セミナーの実施、移住検討者を対象とした現地案内サービス事業、移住について具体的な検討を行ううえで必要となるお試し移住事業を展開するとともに、受け皿ともなる空き家バンク制度の充実を図った。

また、生涯学習、生きがいつくりの取組としては、杉並区との連携による体験型交流プログラムの実施、1対1で南伊豆の暮らし体験を提供する「南伊豆暮らし図鑑」の推進など地域住民の生きがいつくり及び小さな商いの仕組みづくり、地域内外に向けた生涯学習のプラットフォームづくりを引き続き推進した。

さらに、仕事づくりの観点からは、サテライトオフィス誘致やワーケーションの推進、観光を中心とした地域産業の活性化を図るための基本となる「南伊豆町産業振興計画」の策定に地域内事業者の協力を得ながら取り組んだ。

なお、拠点整備構想が暗礁に乗り上げた形となったことから、定住、移住の受け皿の確保として地域の空き家活用など、遊休資産の活用に積極的に取組むこととしている。

○設定した目標（KPI）に対する実績

目標（KPI）	目標値	実績値
拠点エリア内への移住者数	10人	0人
生涯学習プログラムへの都市部からの参加者数	40人	66人
サ高住等整備計画づくりへの参加者数及び入居（移住）相談者数	40人	0人
サテライトオフィス、シェアオフィスの利用者数	5団体	6団体
本事業に関する企業者数又は雇用創出数	4人	0人
遊休施設の活用件数	3施設	1施設

【地方創生事業に対する評価】 A B C ◎ E

一定の成果は得られたものの、地方創生推進のために改善が必要

事業2：南伊豆町生涯活躍のまち（南伊豆のまち・ひと・しごとづくり大学）

地域再生計画の名称	南伊豆町生涯活躍のまち（南伊豆のまち・ひと・しごとづくり大学）			
総合戦略上の位置づけ	基本目標4 南伊豆町が持つ環境を活かして生涯健康で元気に暮らせる地域社会を創出し、アクティブシニア層の転入を増やし、後期高齢者の転出を抑える			
事業の内容	地域再生基本方針に基づく支援制度「地方創生推進交付金」を活用し、生涯活躍のまちづくりを推進することで、本町の地域再生を図る事業			
事業期間・事業費	平成29年度から令和3年度（令和元年度事業）			
具体的な取組及び効果検証	目標（KPI）	前年度末	令和元年度	事業全体
	本取組を通じた町内への移住者数	27人	20人	90人
	生涯学習プログラムへの都市部からの参加者数	36人	40人	200人
	生涯学習プログラム（南伊豆町での暮らし体験）提供者数	0人	10人	20人
	サテライトオフィス、シェアオフィスの利用者数	26団体	5団体	20団体
<p>平成27年度から取組み始めた健康創造型生涯活躍のまちづくりの推進のうち、令和元年度に実施する事業。</p> <p>平成28年度に設置された「南伊豆町生涯活躍のまち推進協議会」での審議を経て、「教えあい学び合う（生涯学習）」をキーワードに若者から高齢者までを取り込みながら、健康寿命を延ばすとともに、地域住民にも移住者にも魅力のあるまちづくりを目指すこと（地理的空間的展開）とし、「既存施設の有効活用」により、多世代向けの住まいや働く場所の整備、また高齢化の進んだ際の地域包括ケアシステムを進めること（時間的継続的展開）を基本とした南伊豆町版生涯活躍のまち「（仮称）ミナミイズ温泉大学プロジェクト」中間まとめとして報告され、平成29年度以降、地方創生推進交付金を活用しながら推進を図ってきた。</p> <p>当初の想定では、共立湊病院跡地の再生に向けた拠点整備として進める想定であったが、同地の取得及び活用については財政面、防災面の観点から見送ることとなり、大幅な計画変更の必要が生じている。</p> <p>今年度の事業については、計画内容の変更のための各種調整及びこれまで取組んできたソフト事業を継続的に進めて来た。</p> <p>具体的には、定住及び移住の推進を図る取組として、各種セミナーの実施、移住検討者を対象とした現地案内サービス事業、移住について具体的な検討を行ううえで必要となるお試し移住事業を展開するとともに、受け皿ともなる空き家バンク制度の充実を図った。</p> <p>また、生涯学習、生きがいがづくりの取組としては、杉並区との連携による体験型交流プログラムの実施、1対1で南伊豆の暮らし体験を提供する「南伊豆</p>				

暮らし図鑑」の推進など地域住民の生きがいつくり及び小さな商いの仕組みづくり、地域内外に向けた生涯学習のプラットフォームづくりを引き続き推進した。

さらに、仕事づくりの観点からは、サテライトオフィス誘致やワーケーションの推進、観光を中心とした地域産業の活性化を図るための基本となる「南伊豆町産業振興計画」の策定に地域内事業者の協力を得ながら取り組んだ。

なお、拠点整備構想が暗礁に乗り上げた形となったことから、定住、移住の受け皿の確保として地域の空き家活用など、遊休資産の活用に積極的に取り組むこととしている。

○設定した目標（KPI）に対する実績

目標（KPI）	目標値	実績値
本取組を通した町内への移住者数	20人	20人
生涯学習プログラムへの都市部からの参加者数	40人	66人
生涯学習プログラム（南伊豆町での暮らし体験）提供者数	10人	19人
サテライトオフィス、シェアオフィスの利用者数	5団体	6団体

【地方創生事業に対する評価】 A B D E

一定の成果を得ることができ、概ね地方創生推進に寄与した